



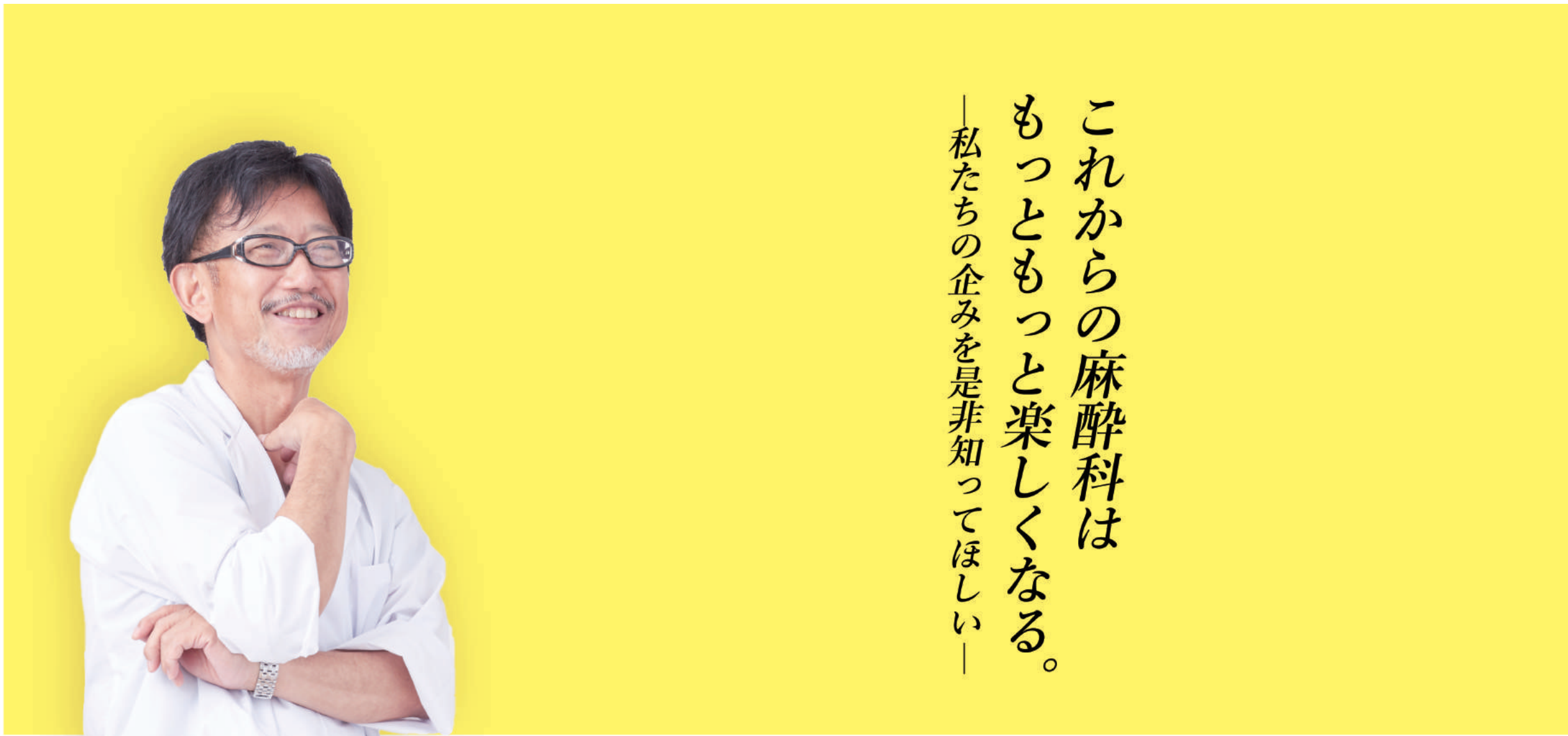
強力者 求ム。
Let's challenge with us

奈良県立医科大学麻醉科学教室

INDEX

教授挨拶……………P.1・2
 麻醉科とは……………P.3・4
 奈良医大の特徴……………P.5・6
 専門研修プログラム……………P.7・8
 施設Pick Up……………P.9・10

サブスペシャリティ……………P.11・12
 先輩Interview……………P.13・14
 指導者紹介……………P.15・16
 アクセス……………P.17
 Q & A……………P.18



これからの麻酔科は
もっともっと楽しくなる。
— 私たちの企みを是非知ってほしい —

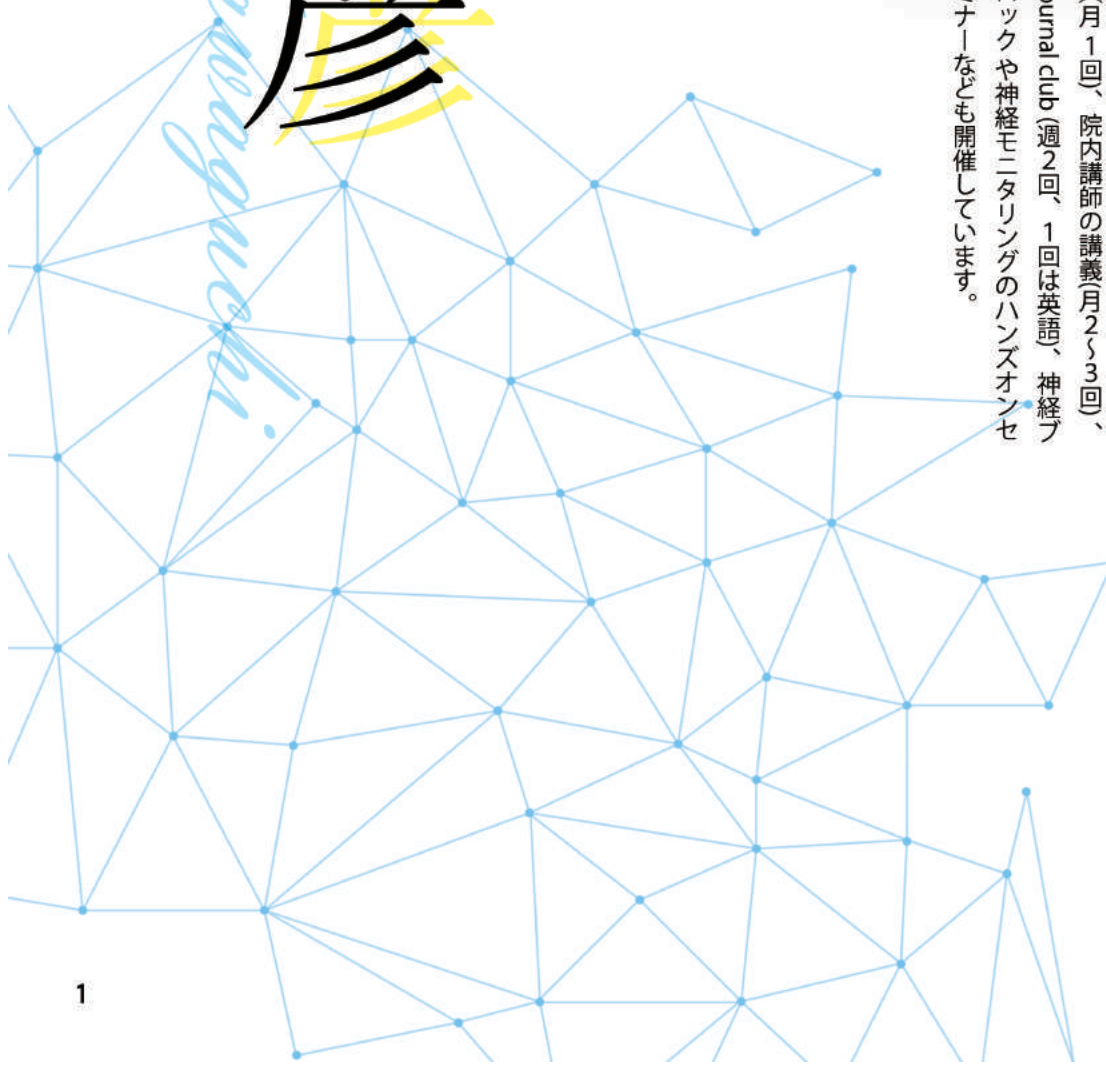
当教室は、「手術麻酔」「集中治療」「ペインクリニック」「緩和ケア」を4つの柱として、幅広い領域の臨床・教育・研究を行っています。麻酔科専門医だけでなく、各サブスペシャリティの専門医の取得もサポートしています。手術麻酔では、先天性心疾患センターも設立され、小児心臓麻酔なども経験できます。麻酔科専門医研修に必要なすべての手術を経験でき、多くの重症患者や緊急手術も経験できます。先進的な取り組みとして、大学病院に設置された「周術期管理センター」があり、麻酔科医・歯科医・看護師・薬剤師などの多職種による周術期管理チームで手術患者様をサポートしています。手術室だけでなく、術前の外来の時点から退院まで患者さんが早期の回復や良好なアウトカムが得られるようプレハビリテーションプログラムを実施しています。ペインクリニックも全国的に有名です。渡邊病院教授の指導で、高度な神経ブロックなどの治療の実践・研修が可能です。透視下神経ブロック数は年間5000件以上実施しています。また、井上病院教授の指導の下、全員参加型で集中治療を行っているのも特徴で、重症例や緊急手術など、幅広く麻酔・集中治療管理を経験できます。麻酔と集中治療はセットで研修していただきます。重症患者の手術麻酔には術後集中治療での研修はとて有益です。緩和ケアの研修も可能で、研修中に緩和ケアの基礎も学んでほしいと思っています。四宮病院教授は経験豊富で、人柄もよく、緩和ケアのスタッフとよい環境で研修を実施することが可能です。基礎・臨床研究も可能で、社会人大学院生として勤務しながら医学博士を取得することもできます。大学院生も多く、早い時期からリサーチメンバーを身につけることで、情報収集とフェアな判断力の育成が可能です。研究も楽しんでいただければと思います。教育・研修体制も充実しています。長期海外留学の推奨に加え、2015年には海外の医療機関で1〜2週間の研修を行って海外留学制度もスタートさせました。海外から講師を招き、1週間英語で集中治療の実習を行うなど最新医療・技術を学ぶセミナーも随時開催しています。その他、国内の見学会や短期の勉強会も推進しています。外部講師の講演（月1回）、院内講師の講演（月2〜3回）、Journal club（週2回、1回は英語）、神経ブロックや神経モニタリングのハンズオンセミナーなども開催しています。

医師の働き方対策にも積極的に取り組んでいます。当直明けの勤務なしや、時間内での勉強会の実施も積極的に取り組んでいます。また、様々な関連施設で研修を受けられるのも魅力の一つです。研修可能な施設は、大阪府立母子健総合医療センター、国立循環器病研究センター、大阪市立総合医療センター、大阪医療センター、聖路加国際病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、天理よろづ相談所病院、市立奈良病院、奈良総合医療センター、近畿大学奈良病院など多彩です。希望に合わせて研修や勤務の調整をさせていただきます。どのような未来に進むかを、一緒に考え計画できればと思います。大阪や京都へのアクセスも良く、大阪には電車で30分程、南阪奈道路を使えば大学の横まで信号なしで来ることができます。都市部では専門医数に制限はありませんが、比較的都市部に近い奈良では、研修生の受け入れを十分に行うことが可能です。

教育・研究部門を約15先に移転する予定で、跡地には当大学を中心とした「医学を基礎とするまちづくり(MRI×メテオ×シン・ベース・タウン)」という新しい産業の創出を目指したまちづくりを推進しています。麻酔科でも手術麻酔・集中治療部門、救急医療などの急性期医療から、疼痛管理緩和ケア、在宅医療まで幅広いターゲットで健康長寿な新時代を生き抜く活動拠点を創生しています。最近では、患者さんのストレス度や幸福度を目指すという新たな研究も開始しています。コミュニケーションロボットを用いた医療介入についても検討を始めています。麻酔科では未来に向かった果てしないフィールドが待っており、多くの仲間を必要としています。我々のモットーは、仲良く、楽しく、新しいことにチャレンジしていくことです。目まぐるしく変化するこの時代に、アンテナをはってどんどん進化していきたいと思っています。そのような仲間！強力者に是非、お集まりいただければと思います。この伝統のある地で、共に働き、共に楽しみ、共に夢を語り合える仲間をお待ちしています。一度、見学会など訪れていただければと思います。よろしくお願いたします。

奈良県立医科大学麻酔科学教室
教授

川口昌彦



麻酔科医って、これから必要？

—各病院では麻酔科医の数にその活力がかかっていると言っても過言ではありません。
すべての疾患を扱う“Generalist”として、病院内の様々な部署での活躍が期待されています。

1 増え続ける手術と術後ケア

各施設で手術件数は増え続けています。今後、病院機能の集約化が加速し、更なる手術の増加によって、麻酔科医の増員が望まれています。心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔、神経麻酔などの専門指導医も必要になってきます。
さらに最近では、手術中の麻酔のみでなく、周術期管理センターで手術決定時から退院まで患者さんと関わる“Perioperativists”も注目されており、奈良医大でもその活動をいち早く開始しています。

2 オペ場以外でも

手術室以外での仕事も増加しています。重症患者に対する集中治療、急性期疼痛管理や慢性痛に対するペインクリニック、がん患者さん等への緩和ケアの提供なども麻酔科医としての大きな役割です。その他、医療安全や病院経営などにも多数関係しています。
中央部門として多職種チーム医療ができる麻酔科医は、どの領域でも活躍することができます。

3 様々な緩和ケア

今後増え続ける高齢者の在宅医療にも、緩和ケアチームとして関わっていくことになります。さらに、最近では非がん疾患の緩和ケアも注目されており、多くの患者さんのケアにあたっていく必要があります。終末期には重症例も多く、集中治療医や緩和ケア医などの多職種チームでの活動が必須です。
奈良医大麻酔科でも、終末期医療や健康長寿に向けた社会的な取り組みを実施しています。

手術を受ける患者さん、重症で集中治療が必要な患者さん、慢性的な痛みで苦しむ患者さん、すべての終末期の患者さんと関わっていくことになります。
麻酔科医はいくら人数がいても足りません。未来に向かって新たな領域を創造し続けることができます。
そのためにも多くの仲間との結集を期待しています。



奈良医大麻酔科学教室では、教室のメンバーと共に医療・教育・研究を楽しめる人材を求めています。

「こうなりなさい」とは言いません。
あなたの「こんなことをやってみたい」を私たちは全力で応援します。

麻酔科の扱う領域は思ったよりも広く、
今も広がっていることを知っていますか？

私たちはこれからの未来に向かって、共に医療を楽しみ、
麻酔科の可能性をどんどん開拓していける人を求めています。
あなたの個性を生かして、どんどん新しいことにチャレンジしてください。
そうしてあなたが、次の時代へ、次の医療へと飛躍していくなら
麻酔科のこれからはもっと面白くなる。そう企んでいるのです。

今、この時も、奈良医大麻酔科学教室には
色々なことにチャレンジしている先輩がたくさんいます。

あなたも、一緒に楽しみませんか？

NMU ANE STP

奈良医大麻醉科 の紹介

MOTTO:

我々のモットーは“個性重視”、“時代にあった新たな挑戦”
そして“良好なチームワーク”です。
仲良く、心地よく、喜びや充実感を得られればと考えています。
手術麻酔だけでなく、集中治療、ペインクリニック、緩和ケアの設備も充実しており、
バランスよく研修することができます。
麻酔専門医だけでなく、サブスペシャリティの取得もサポートさせていただきます。
研究にも従事し、リサーチマインドも身につけていただけます。
大学院を選択すれば、医学博士を取得することも可能です。



Introduction of Nara Medical University:

奈良県立医科大学は大和三山に囲まれた神秘的な歴史とパワーを有する地であり、
建国の地とされる橿原神宮のすぐそばに位置しています。
自然に恵まれた和やかなところですが、大阪などへのアクセスも良好です。大阪から最寄りの大和八木駅までは30分、
南阪奈道路は大学の横までつながっていますので、大阪から通勤している人も多いです。
一方で、今後の開発に期待が寄せられています。大学の中期計画として、臨床・教育・研究に加え、地域医療やまちづくりにも取り組んでいます。
まちづくりでは、平成33年に完了予定の教育・研究部門の移転(新キャンパス)に合わせ、附属病院の横に近鉄の駅の設置も計画しています。
“医療を基礎とする町づくり(Medicine-based town/MBT)”をキーワードに、企業と共に新たな産業や健康長寿な住みたい町の創生をめざしています。
医学生の間から多くのアイデアを持ち寄り、町の方々と関わる取り組みをしています。
学園祭である白樺生祭(かしふさい)のキャラクターである“しょうとくた医師くん”も大活躍しています。
奈良医大附属病院では各診療科の壁が低く、温和外科の先生が多いので、麻酔科としてもとても働きやすい環境です。
大学が一丸となって、未来へ躍進したいと考えています。

STUDY:

“麻酔周術管理勉強会”やっています。
麻酔科後期研修医を主な対象とした
専門医取得に向けた勉強会です。
PBLなどをを用いて基本的事項の理解を深め、
臨床対応能力の向上を目指します。
月に2~3回程度、主に火曜17:00~行っています。

SEMINAR:

“基礎・臨床スターセミナー”やっています。
研究活動にも積極的に取り組めるよう、
基礎研究・臨床研究の方法を基礎から学ぶ
講習会も定期的に開催しています。
今年度は4~10月の主に木曜に、
月2~3回のペースで開催しています。



5

奈良医大麻酔科の特徴を PICK UP!!

CHECK 1

幅広い経験が積める

心臓麻酔、呼吸器外科麻酔、脳外科麻酔、小児麻酔、産科麻酔などの
必要症例を経験するだけでなく、急性期病院における重症例や緊急症例を十分に
経験できます。

CHECK 2

充実したスペシャリティと指導陣

集中治療、ペインクリニック、緩和医療の研修も、やさしい指導陣揃いで、
楽しくサブスペシャリティを学ぶことができます。

CHECK 3

様々な勉強会で底力アップ

院内・院外セミナーなどの勉強会が充実していて、みんなで楽しく勉強できます。
国内・国外とも交流が盛んです。

CHECK 4

リサーチマインドを身につけ海外へ

卒業早期から学会発表や論文作成に携わることで、
医師として必要なリサーチマインドを身につけることができます。
海外での発表も推進しています。

CHECK 5

女性のキャリアアップも安心

ママ麻酔科医制度が充実しているため、産休や育休、復帰後キャリアアップも
無理なく安心してできる体制が整っています。

CHECK 6

関連施設が豊富で選択肢が自由

奈良医大附属病院だけでなく、奈良・大阪・関東にも専門連携施設があり、
各個人が希望するキャリアパスに応じ、オーダーメイドな研修計画を
立てることができます。

CHECK 7

時代に合った働き方改革を

医師はとてもハードな仕事であり、現代社会でも勤務体制の整備が求められて
います。奈良医大麻酔科では、当直明けフリーや、業務終了後9時間は出勤し
ない等、on&offのはっきりした勤務間インターバル制度を導入しています。

Enjoy your life & work!!!



6

NMU ANE STP

専門研修 PROGRAM

2018年度から正式にスタートした新専門医制度。
次世代の専門医になるために、様々な試みがなされています。
奈良医大麻酔科でも、新専門医制度を受け、充実したプログラムの構築を行っています。

奈良医大麻酔科専門研修プログラムについて

1. 概要

初期研修終了後の4年間のプログラムです。最低1年は奈良県立医科大学附属病院で研修してもらい、その他の期間は専攻医の希望を優先した上で、各研修施設と調整させていただきます。合計600症例以上の麻酔担当が必要で、以下の特殊症例の経験が必要です。
尚、卒業臨床研修期間の2年間に専門研修指導医が指導した症例は、専門研修の経験症例として数えることができます。

小児(6歳未満)の麻酔	25症例
帝王切開の麻酔	10症例
心血管外科の麻酔	25症例
胸部外科手術の麻酔	25症例
脳神経外科手術の麻酔	25症例

2. 特徴

本プログラム研修施設は専門研修基幹病院(奈良県立医科大学附属病院)の他に、専門研修関連施設として関西圏に19施設、関東圏にも3施設を用意しており、各個人が希望するキャリアパスに準じてオーダーメイドな研修計画を実施することが可能になっています。必須症例を経験するだけでなく、大学を中心とした急性期病院における重症例や緊急症例を経験できること、また、麻酔科専門医に必要な、集中治療、ペインクリニック、緩和医療の研修もバランスよく経験できることは本プログラムの特徴です。
また、卒業早期から学会発表や論文作成に携わること、医師として必要なサチマインドを身に付けることもできます。ママ麻酔科医制度も充実しているので、産休・育休・復帰後キャリアアップも無理なく、安心して実施できます。

3. 指導体制と症例数

定員：12人
本研修プログラム全体における前年度合計麻酔管理症例数：21,197症例
本研修プログラム全体における総指導医数：116人

	合計症例数
小児(6歳未満)の麻酔	855症例
帝王切開術の麻酔	545症例
心血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	678症例
胸部外科手術の麻酔	748症例
脳神経外科手術の麻酔	1,244症例

4. 研修施設

研修施設は専門研修基幹病院(奈良県立医科大学附属病院)の他、専門研修関連病院として、関西圏に19施設・関東圏にも3施設用意しています。小児麻酔や心臓麻酔など、それぞれの専門分野に特化した施設や、ICU管理も学べる施設等、キャリアパスに応じて臨機応変な研修が可能です。ママ麻酔科医を受け入れている施設も多数あり、女性のキャリアパスにも柔軟に対応できる環境が整っています。

専門研修基幹施設……奈良県立医科大学附属病院

専門研修連携施設A……<奈良県>
奈良県立総合医療センター
市立奈良病院
奈良県西和医療センター
平成記念病院
<大阪府>
国立循環器病研究センター
大阪母子医療センター
市立東大阪医療センター
医共会八尾総合病院
大阪明館病院
大阪鉄道病院
ベルランド総合病院
大阪医療センター
<兵庫県>
兵庫県立こども病院
<東京都>
聖路加国際病院

専門研修連携施設B……<奈良県>
天理よろづ相談所病院
済生会中和病院
奈良良総合医療センター
近畿大学医学部奈良病院
<大阪府>
大阪市立総合医療センター
堂仁会 千船病院
<東京都>
順天堂大学医学部附属病院順天堂医院
<埼玉県>
埼玉県立小児医療センター

心算お待ちしています!!

是非一緒に働きたい!!

何となく気軽に質問して下さい!!



初期研修終了!!

専門研修 1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を習得し、ASA1~2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2年目

1年目で習得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA3度の患者の周術期管理やASA1~2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと安全に行うことができる。

専門研修 3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、様々な特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。
また、ペインクリニック、集中治療、救急治療などの関連領域の臨床に携わり、知識・技能を習得する。

専門研修 4年目

3年目の経験をさらに発展させ、様々な症例の周術期管理を安全に行うことができる。
基本的にトラブルない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時など適切に指導医をコールして、患者の安全を守ることができる。

専門医取得! 次のステップへ



専門研修プログラムに応募する場合は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに下記研修プログラム宛に応募してください!

- ◆応募時必要書類
 - ①履歴書
 - ②医師免許証(コピー)
 - ③臨床研修終了登録書(コピー)あるいは修了見込み証明書
 - ④健康診断書
- ◆採用スケジュール
 - 10月中旬募集開始予定
- ◆問い合わせ先
 - 住所：奈良県橿原市四条町840
 - 電話：0744-29-8902 FAX：0744-23-9741
 - Web：http://www.naramed-u.ac.jp/~anes/education/program/
- <プログラム内容についての問い合わせ>
 - 奈良県立医科大学附属病院 麻酔科・ペインクリニック 川口 昌彦
 - E-mail：drjkawa@gmail.com
- <事務手続きについての問い合わせ>
 - 奈良県立医科大学麻酔科学教室 医務秘書 岡田 美乃梨
 - E-mail：nara-masu@naramed-u.ac.jp

和たちが全力でサポートします!!



NMU ANE STP
施設紹介

奈良医大には、関西圏はもちろん、関東にも多数の関連病院があります。麻酔科には手術麻酔といっても、小児麻酔や心臓麻酔など、より専門的な知識が必要になることも多く、それぞれの疾患に特化して学べる施設もたくさん用意しています。ここでは様々な分野の紹介も兼ねて、3つの病院をご紹介します。

奈良医大麻酔科の関連病院を Pick Up!!

大阪母子医療センター

大阪母子医療センターは大阪府和泉市に位置する小児および産科の専門病院です。2017年の麻酔科管理の手術件数は約4800例で、小児と産科の専門施設として国内でも有数の手術症例数となっています。小児麻酔では、未熟児から全ての年齢の子供を対象に、心臓血管外科を含むほぼ全ての科の麻酔を経験できます。また、専門施設ならではの難易度の高い症例も豊富にあります。産科麻酔では帝王切開や無痛分娩だけでなく、胎児鏡下手術やEXITなどの胎児治療症例も経験できます。また、希望者は集中治療科でICU管理も勉強することができます。小児麻酔、産科麻酔を勉強したい先生は是非研修に来て下さい。

平成25年卒 小川 祐貴 先生



国立循環器病研究センター

国立循環器病研究センターでは、主に心臓血管手術の麻酔を学ぶことができます。特筆すべきは多岐に渡る症例の多さです。弁手術、冠動脈バイパス手術、大血管手術はもちろん、小切開手術、ロボット手術、血管内手術、VAD装着手術、心移植など、ここだからこそ学べる貴重な症例がたくさんあります。新生児から成人までの先天性心疾患手術や、心疾患既往の妊婦の帝王切開も経験できます。また、研究施設でもあり、研究も盛んに行われています。全国から集まった個性豊かな同期と共に、さまざまなモニタリングを駆使し、心臓のパフォーマンスを最大限に活かす循環管理を系統立てて考える力を身に付けることができる、非常に良い環境です。

平成25年卒 大井 彩子 先生



大阪市立総合医療センター

大阪市立総合医療センターでは21室(手術センター20室、周産期センター1室)の手術室に加え、出張麻酔(アンギオ室、MRI室)で多数の手術麻酔を経験することができます。また、心臓血管外科手術やTAVI手術、小児心臓血管外科手術の麻酔も経験でき、各種専門医取得を希望する人には大きなメリットです。小児医療センターが併設されており、超低出生体重児を含めて小児症例が豊富なのも魅力です。近年、集中治療領域に興味を持つ先生も増えていますが、当院の麻酔科では16床の成人ICU管理(うち麻酔科7床、救急科9床)にも携わっています。術後(心臓血管外科術後含む)入室患者、院内急変患者の対応が主ですが、同一フロアで救急科と連携して診療を行っているために3次救急患者の対応をすることもあります。手術麻酔、ICUのどちらも充実しており、幅広い研修ができると思うので、たくさんの先生方に研修に来て頂き興味をもっていただければ嬉しいです。是非ともお待ちしております。

平成24年卒 紺田 真規子 先生



麻酔科はとても手技の多い科の一つです。また、超急性期の患者さんから重症患者さん、ペインや緩和など、幅広い分野と関わっています。それゆえ、関連施設も多数揃っており、自分の希望に応じて様々な施設で学べるチャンスがあります。身につけた“専門性”を武器に、更なる飛躍のために、それぞれが日々努力しています。

NMU ANE STP
SUBSPECIALITY

麻酔科の専門分野を紹介します。周術期麻酔のみではなく、院内の様々な部門で働く麻酔科医がいます。奈良医大麻酔科は、希望に応じてこれらの専門分野の研修が可能です。



Which one do you choose?

ペインクリニックでは、麻酔で培った全身管理やブロック手技、幅広い知識を活かして、痛みの原因を診断し専門的に治療します。奈良医大ペインクリニックの特徴はX線透視下に行うブロック治療です。神経根ブロックから脊髄刺激療法などの小手術まであらゆる手技が可能で、症例数は本邦でもトップクラスの年間3000件を超えます。対象疾患は主に脊椎疾患や帯状疱疹で多くの症例をご紹介いただいています。また地域で唯一の大学病院であるため、脳脊髄液漏出症やCRPSなどのまれな難治性疼痛疾患症例も豊富に経験できます。ブロック治療が有名ですが漢方治療を含めた内服や心理的なアプローチなど包括的な治療を研修できます。我々はペインクリニックのメッカとなることを目指しています。

集中治療 *for seriously ill patients*

各科の術後管理と院内発症の重症患者の管理を引き受けています。ICUと大学病院という高度医療資源を有効に使うためセミクローズド方式（基本集中治療医が管理し専門性が高い治療は当該専門科が指示を出す）で管理を行っています。いろいろな科の協力を結びつけるために手術室で培った麻酔科の全身管理能力とコミュニケーション能力が発揮されることだと思います。また、研究においての特徴はICUの環境に関して行っています。無機質な機械的な環境をいかに優しい環境にするかを、五感（視聴触味臭）に訴えるをテーマにEMC(Effective medical creation)というサービスを展開しようと頑張っています。興味のある方はぜひのぞいてみてください。



ペインクリニック
for pain management

緩和ケアとは、あらゆる病気に伴って生じる身体や心のさまざまな苦痛を和らげ、患者の皆様やご家族にとって可能な限り生活の質（Quality of Life）の維持・向上を目指す医療です。「緩和ケア」＝「終末期医療」ではなく、病状のどの時期においても行われる医療であり、緩和ケアセンターのスタッフは、患者の皆様一人ひとりが症状をコントロールしながら、ご自分らしく生活するためのお手伝いをしています。入院中の患者さんやご家族のケアだけでなく、外来で治療を行っている患者さんのケア、家族・遺族の方のケアも行っています。医師、看護師、薬剤師、臨床心理士などがチームとなって、主治医、看護師をはじめ多職種と協力して患者さんとご家族を支えています。初期研修や後期研修の先生も是非、勉強に来ていただければと思います。

緩和ケア *for the quality of life*



先輩 interview



実際にプログラムを履行中の先輩に話を伺ってみました！
実際のところ、プログラムがどんな感じなのかは先輩に聞くのが一番！
奈良医大には出身大学に関係なく、色々な先生が在籍していますので、他にも聞きたいことがあればお気軽にご連絡くださいね！



Q1. 麻酔科を選んだ理由は？

Q2. 奈良医大麻酔科研修のよいところは？

Q3. これからの目標は？

- Q1.1 初期研修で研修したところの科も面白くて迷いましたが、毎日麻酔科している自分が一番しっくりきたからでしょうか。学生のときに興味を持った科ではなく、初期研修では結構大変だったな…という科ですが、研修を振り返った時に一番興味を持って今後学んでいきたい！と思って選択しました。
- Q1.2 他大学出身なので、奈良医大の麻酔科がどんなところかあまり知らずに決めました。ちょうど後期研修3年終わるところなのですが、振り返ってみると…
①徐々に(知らないうちに?)レベルアップしている！と実感する→なんか楽しい。任されるようになってさらに楽しい！！という日々です。
②「発表してみる?」「やってみたい?」と言われてたくさん学会発表、臨床研究、そして論文…どれも手取り足取り。大変だったけど頑張ってきたー！と思います。
③関連施設での研修→神経ブロック、帝王切開、当たる症例も大学の時より多くて大学とは違う経験をしました。神経ブロックってすごい！を日々実感しました。
④色々な科の色々な手術、ICU症例をみる機会があるのですが、麻酔科の先生はもちろん、他科の先生方にもたくさん教えていただけるので、学びやすい環境だなーと思います。
- Q1.3 これは入局当初から変わらないのですが、上の先生を見てると信頼されている自分だなーと尊敬しちゃいます。技術だけでなく、オペレーターの先生やコメディカルスタッフが安心して手術してもらえるような麻酔ができるようになりたいです。麻酔科と決めた当初はあまり考えていなかったのですが、産科麻酔、小児麻酔にも興味を持ってきたところなので勉強したいと思う今日この頃です。



平成23年度 緩和病棟 先生

- Q1.1 僕は他大学出身ですが、地元奈良で働きたいと思っていたので、奈良県医師確保研修学資金を受けていました。学生の頃から、その選択科目のなかで、専門性を持って全身管理を手術室、ICUなどで行うことのできる麻酔科に非常に興味を持っていました。実際研修をしてみると、ひとつひとつ日々行われる手技、管理などで、厳密さが必要であり、それぞれが患者さんの全身管理に密に関係しているのを感じ、そのやりがい麻酔科にした理由だと思っています。
- Q1.2 手術麻酔の研修は、研修医が上級医と共に担当します。多くの手技や麻酔管理を、たくさん学ぶことができ、ひとつひとつのモニターの意味や対応など、細かく学ぶことができます。また、麻酔研修中は、若手医師向けの周術期管理勉強会や、手技実習を適宜行っており、参加することができます。また、Resident Tips といって、研修医の医局内発表の場があり、いろんな話題や論文などの発表を通じ、プレゼンテーション能力も養うことができます。他に、集中治療部、緩和ケア、ペインセンターで研修も連携しており、様々な場面で役に立つ研修もしています。
- Q1.3 医師確保研修学資金を受けていたこともあって、救急の分野にも興味があります。今は手術麻酔管理などで、実力をしっかりと身に付け、緊急手術の麻酔や、救急救命センターなどでの救急医療や集中治療管理で貢献できるように、日々勉強して行きたいと思っています。



平成27年度 山神真之 先生

- Q1.1 急性期疾患にもともと興味をもっていて ICU 管理のできる医師を目指していました。麻酔科は呼吸・循環管理のプロであり、それが活かされると思いました。研修の最初に回った科でも印象的であったことも理由の一つだと思います。
- Q1.2 上級医の指導のもと多くの手技や基本的な麻酔管理を学ぶことができます。心血管作業や人工呼吸器の使い方など研修医の苦手分野も克服できると思います。また麻酔関連領域として ICU やペインクリニック、緩和医療の研修もできるため、興味の幅は広がるのではないのでしょうか。またサスペンディビリティとしての心臓麻酔、小児麻酔など、より専門知識を得るために国立循環器病研究センターや育母母子保健総合医療センターなども連携し研修することができます。
- Q1.3 僕は現在国立循環器病研究センターのレジデントとして研修させていただいています。奈良医大だけでは経験できない症例はもちろん、重篤な心疾患併患者の麻酔管理を日々勉強しています。多くの麻酔は問題なく終わりますが、予備力のない症例でこそ麻酔科にかかできない適切な管理が求められます。そんな症例を安定して管理できることが現在の目標であり、さらに一般麻酔へ応用できるように努力していきたいと思っています。



平成28年度 飯沼勇起 先生

- Q1.1 私が麻酔科に興味を持つようになったのは、妹の手術がきっかけでした。手術中に不整顔が出現し、その時は担当の麻酔科の先生に処置をしていただく無事に手術を終えることができたのですが、それまで麻酔科という科があることさえ知らなかった私にとっては、実際に手術中に記録された心電図波形を見せながら説明してくださる先生の姿がとても印象的でした。普段は目立つ存在ではなくても、患者家族や手術を受けている患者本人も知らない間に起こった異変や問題にいち早く気づき、適切かつ迅速に対処する麻酔科のお仕事に興味を持ちました。
- Q1.2 麻酔科では、多様な疾患を持った方の麻酔を担当します。年齢も小児から高齢者まで様々です。そのため、内科領域・外科領域に関わらず幅広い知識を身につけることができます。また、奈良医大麻酔科では症例ごとに、私たちの技術や知識レベルに合わせてとても優しく丁寧に指導していただけますし、学年の近い先輩は症例や麻酔業務のことはもちろんのこと、些細なことでも相談に乗っていただけます。毎日の小さなことから、将来のキャリアプランまで相談に乗ってもらえる先輩方が多いので本当に頼もしいです。同期もたくさんいるので、失敗したことを共有したり、落ち込んだ時には励ましてもらったりしながら毎日過ごしています。
- Q1.3 まだまだ未熟ですが、今は周術期をより安心して過ごしていただけるように、毎日の症例を大切にしながら学んでいるところです。手術は術者の先生方やコメディカルの方とコミュニケーションをとりながら連携することが重要なので、知識や技術だけでなく、しっかりと周囲に気を配るようにならなければと思っています。また、術中だけでなく術後も含めて大きな視野を持って麻酔管理ができるように、そして小児麻酔や産科麻酔、心臓麻酔についてもこれからと学んでいきたいです。



平成27年度 城本真帆 先生



平成26年度 仲野有希 先生

- Q1.1 初めて麻酔科の存在を知ったのは、大学4年生の病院実習の時でした。普段の手術場で、麻酔科医はわりけ目立つ存在ではありませんが、患者さんを手術の傍から守り、緊急時には手術室の指揮をとって迅速に対応します。そんな先生方を見て憧れの念を抱き、いつか私もその仲間に加わりたいと思うようになりました。また麻酔科は他の科よりも患者さんとの関わりが薄いと聞かれましたが、実際に研修してそのイメージが変わりました。手術前には直接患者さんに会って話を伺い、麻酔の話をし、緊張を和らげるよう努めます。その後、患者さんの情報を元に麻酔計画を立て、手術中は患者さんの側で患者さんを守るべく全力を尽くします。手術後は、麻酔の副作用や合併症の有無を確認し、早期離床できるように自己調節鎮痛デバイスや、神経ブロック等で手助けします。数日後、患者さんが笑顔で過ごしている姿を見たり、麻酔をかけてくれてありがとうと書いてもらった時に、やりがいを感じます。このように、短期間ですが、患者さんに集中し、密に関われる点に大きな魅力を感じています。そして、女性の先輩医師をモデルに自分のライフプランを考え、その時に最も具体的にイメージできたのが、麻酔科でした。
- Q1.2 当教室は、指導医と研修医がペアになって症例を担当し、最初から最後までマンツーマンで教わるすることができます。様々なモニターを見ながら、患者さんがいざという状態なのか、自分で論理的に考える力が身につきます。そして、苦手な手技のコツも教えてもらえるので、一気に上達できます。また、臨床工学技士と一緒に症例を担当することがあり、麻酔機器についての知識を深めることができます。その他の手術室スタッフの方々も、慣れない研修医を優しくサポートしてくれ、働きやすい環境が整っています。また、毎週研修医向けの周術期勉強会、英論文抄読会、経食道心エコー勉強会があり、積極的に若手麻酔科医の教育が行われています。手術麻酔以外に、集中治療室やペインセンター、緩和ケアセンターの研修も可能で、急性期から終末期まで様々な角度から学ぶことができます。
- Q1.3 当教室は、医局員の約半数が女性で、結婚・出産を経た麻酔科医の認定医および専門医取得や社会復帰をサポートする「ママ麻酔科医制度」があります。そのため、子育てしながら活躍する先輩医師が数多くいます。私も麻酔科医として成長しながら、女性としてのライフプランを立て、興味のある小児麻酔について知識と技術を深めたいと思っています。



- Q1.1 学生時代、麻酔科は正直、何をしているか謎の診療科だと思っていました。ですが、5.6年生のポリクリ等の実習で麻酔科の先生が働いている姿を見て教えていただくうちに、緑の下の方持ち、といいますが、なければいけない大切な存在であることを知りました。そして、初期研修医としてローテーションさせていただいた際に、先生方が皆さん本当に尊敬できてカッコイイ！と憧れたことが最終的に決め手になりました。いつか私も、目の前の患者さんの急変にも迅速に対応できる医師になりたい！と思いました。
- Q1.2 上級医の先生方は手技や麻酔管理など本当に丁寧に指導していただいています。もちろんそれだけではなく、どう考えていたら良いか、と思考することもしっかり促していただけますので、自主性が身につけてきたように思います。また、皆さん、様々なサスペンディビリティをお持ちであったり、ご家庭とうま(国立)立っていたりされている方も多く、自分の将来について想像しやすいです。
- Q1.3 まだまだ駆け出しですが、患者さんやご家族、術者の先生にも安心して手術をしていただけるような麻酔をできるようにになりたいです。また、麻酔や集中治療、ペインクリニック、緩和医療などの面白さを感じていただけて、麻酔科医として共に働いてくれる仲間が増えることも目標です！お待ちしております！



平成28年度 富岡真登 先生

NMU ANE STP
指導医



Masahiko Kawaguchi

教授 川口 昌彦

専門 神経麻酔
神経モニタリング
心臓麻酔
資格 医学博士
日本麻酔科学会指導医
日本集中治療学会専門医
ペインクリニック学会認定医
神経麻酔集中治療指導医

出身 奈良県立医科大学

一言 時代のコースにアンテナをはり、常に変化し続ける組織を目指したいと思っています。いつまでもワクワクできる仕事にチャレンジしていきたいと思えます。患者さん、住民の方々、麻酔科医を含めたすべての職員の方の、"Well-being for all"を目指します。



Sataki Inoue

病院教授 井上 聡己

専門 集中治療
脳虚血
低体温
資格 医学博士
日本麻酔科学会指導医
日本集中治療学会専門医
日本心臓麻酔専門医
経食道エコー(B-POT)認定医

出身 奈良県立医科大学

一言 専門分野は脳虚血、低体温と書きましたが基礎研究や学位研究がそうだったため書きました。実際はいろんなところに興味があり広く深くです。やりたいと思ったことはすぐ実行するように心がけていますが、つついやりすぎでしまうことがあります。みんな仲良く楽しく幸せにをモットーに頑張っていきたいと思っています。



Toshiaki Shinomiya

病院教授 四宮 敏章

専門 心療内科
緩和ケア
サイコオンコロジー
資格 医学博士
日本内科学会認定医
日本心身医学会認定専門医
日本心療内科学会登録医
日本緩和医療学会暫定指導医

出身 岡山大学

一言 緩和ケア・サイコオンコロジーに興味のある人は、ぜひ声をかけてください。



Keisuke Watanabe

准教授 渡邊 恵介

専門 ペインクリニック
資格 医学博士
日本麻酔科学会専門医
ペインクリニック学会専門医

出身 自治医科大学

一言 脳脊髄液漏出症の診断と治療に力を注いでいます。最近はX線透視下ブロックとエコーガイド下ブロックをどう組み合わせるかに興味があります。



Hironobu Hayashi

講師 林 浩伸

専門 神経モニタリング
眼循環
資格 医学博士
日本麻酔科学会専門医
神経麻酔集中治療指導医

出身 奈良県立医科大学

一言 楽しく元気にモットーに、好奇心をもって新しいことにチャレンジし続けます。



Yu Tanaka

学内講師 田中 優

専門 臨床疫学
医療経済経営
資格 医学博士
日本麻酔科学会指導医
MBA(経営学修士)

出身 奈良県立医科大学

一言 エビデンスレベルの高い臨床研究や質の高い医療の提供に役立つ仕事を心がけています。



Junji Egawa

学内講師 恵川 淳二

専門 呼吸器外科麻酔、集中治療
資格 日本麻酔科学会指導医
日本集中治療学会専門医
経食道エコー(B-POT)認定医

出身 奈良県立医科大学

一言 学ぶ事が多くあるのは幸せな事です。急性期医療について学びを続け、一人でも多くの患者さんに貢献して行きたいと思っています。

奈良医大麻酔科では、個々人のキャラクターを大切に考え、
各々の特性を發揮できる環境作りにも力を入れています。

ここで紹介するのは奈良県立医科大学附属病院麻酔科学教室に所属する主な講師陣たち。ご覧のとおり、多種多様な専門分野をもつ講師陣がそろっています。このように、奈良医大麻酔科には、様々な専門分野や研究などをバランスよく希望に応じて教育できる指導陣がいることが自慢なのです。麻酔専門医、麻酔指導医、集中治療専門医、ペインクリニック認定医、心臓麻酔専門医などの取得の他、希望するサブスペシャリティの強化を全面的に支援します。時代に対応すべく、変化し続けることができるチームを目指していますので、新しい発想や風を吹き込んでください。あなたの目標や夢に近づくお手伝いをさせていただきます。



Nobuyoshi Matsuzawa Ryoichi Abe

助教 松澤 伸好

専門 臨床麻酔一般
資格 日本麻酔科学会専門医
出身 愛媛大学
一言 区域麻酔が好きなので、一緒にエコーで遊びましょう。



Aki Fujiwara

助教 阿部 龍一

専門 気道管理
神経モニタリング
教育
資格 日本麻酔科学会指導医
出身 奈良県立医科大学
一言 一人でも多くの学生、研修医の方々に麻酔の面白さを経験していただきたいと思ひ日夜頑張っています。



Tadashi Mitsuwada

助教 藤原 亜紀

専門 麻酔
ペインクリニック
資格 日本麻酔科学会指導医
ペインクリニック学会専門医
出身 奈良県立医科大学
一言 患者さんのQOL向上につながる医療を目指します。



Takeaki Shinjo

助教 西和田 忠

専門 手術麻酔
集中治療
資格 日本麻酔科学会専門医
出身 自治医科大学
一言 手術後患者さんが手術をしていたことを忘れてくらくらい楽な麻酔を心がけています。



Kyoko Hasuwa

助教 蓮輪 恭子

専門 小児麻酔
資格 日本麻酔科学会指導医
経食道エコー(B-POT)認定医
小児麻酔認定医
出身 奈良県立医科大学
一言 子供にやさしい麻酔を心がけています。



Yuuki Terada

助教 寺田 雄紀

専門 臨床麻酔
集中治療
資格 日本麻酔科学会専門医
集中治療専門医
心臓血管麻酔専門医
呼吸療法専門医
小児麻酔認定医
経食道エコー(B-POT)認定医

出身 奈良県立医科大学

一言 常に目標をもって一段ずつクリアしたいと思っています。



Shouta Sonobe

助教 園部 奨太

専門 臨床麻酔
集中治療
資格 日本麻酔科学会専門医
ペインクリニック学会専門医
経食道エコー(B-POT)認定医

出身 和歌山県立医科大学

一言 より安全な周術期管理、高度な集中治療を提供できるように尽力いたします。



Yuusuki Naitoh

助教 内藤 祐介

専門 小児麻酔
資格 日本麻酔科学会専門医
出身 奈良県立医科大学
一言 地に足がついた麻酔をしつつも大きな目標を持ってチャレンジしていきたいです。



Mitsuru Ido

助教 位田 みつる

専門 小児麻酔
資格 日本麻酔科学会専門医
小児麻酔認定医
経食道エコー(B-POT)認定医

出身 奈良県立医科大学

一言 Without haste, but without rest.



Akano Kinomoto

助教 紀之本 茜

専門 手術麻酔
資格 日本麻酔科学会専門医
出身 奈良県立医科大学
一言 麻酔科は自立しない職業ですが、緑の下が持ちとして患者さんが元気になるお手伝いをできたいと思います。



Keiko Uemura

助教 植村 景子

専門 麻酔全般
資格 日本麻酔科学会専門医
出身 奈良県立医科大学
一言 患者さんに安心感を与えられる麻酔を目指して、日々楽しく奮闘しています。



Katsuki Tsubaki

助教 椿 康輔

専門 手術麻酔・集中治療
資格 日本麻酔科学会専門医
出身 奈良県立医科大学
一言 リスクのない手術はありません。しっかりとリソースを配分して、できるかぎり平穩に手術を乗り切っていただけるよう努力します。



Yuka Akasaki

助教 赤崎 由佳

専門 小児・産科
資格 日本麻酔科学会専門医
出身 関西医科大学
一言 一緒に頑張りましょう!



Tani Kio

助教 谷 季恵

専門 手術麻酔・集中治療
資格 日本麻酔科学会専門医
出身 奈良県立医科大学
一言 これまで育てていただいた地域の方々や先生方に貢献できるよう、努力していきます。

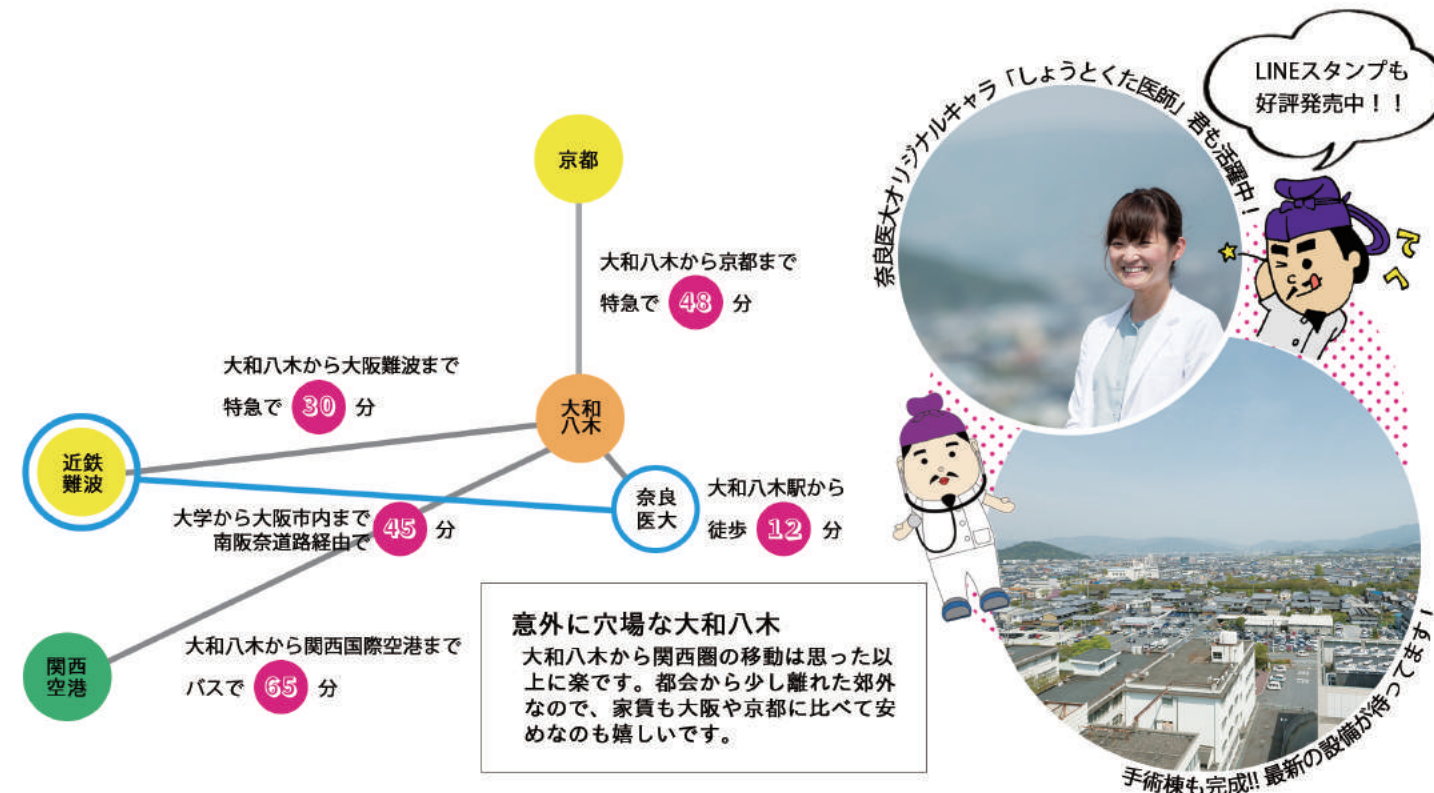
Good Lead, Good Doctor

NMU ANE STP

ACCESS
Q&A

Welcome to Nara Medical University

奈良医大は意外と(?)良い理立地にあります。
観光の穴場もたくさんあり、大阪や京都からのアクセスも良好です。
大和三山に囲まれ、歴史的建造物も多い橿原市で、最先端医療から地域医療まで大きな役割をこなしています。



Q&A

Q.1 どんな研修先がありますか？

A. 奈良医大だけでは症例数に限りがありますので、以下のような研修施設と主に連携させてもらいます。若い先生は主に次のような施設で研修いただきます。大阪母子保健総合医療センター・国立循環器病研究センター・大阪市立総合医療センター・大阪医療センター・順天堂大学医学部附属病院・ペルランド総合病院・天理よろづ相談所病院・市立奈良病院・奈良総合医療センター・奈良県西和医療センター・東大阪総合病院など。

Q.2 どのように研修先を決めますか？

A. 基本的には希望を最大限重視させてもらいます。行きたくない施設に行くことはありません。ただし、希望が重複した場合、どの研修生を選ぶかは各研修施設で決定されますので、しっかりと実力をつけて選ばれる医師にならなければなりません。

Q.3 責任研修施設の奈良医大ではどれくらいの期間勤務しますか？

A. 基本的には1-4年です。最低1年は奈良医大に勤務していただきます。他の研修施設で手術麻酔を十分に経験していただければ、主に集中治療やペインクリニックなどを経験できます。臨床研究などにも興味がある場合は、奈良医大のみを4年間選択することも可能です。

Q.4 集中治療も経験できますか？

A. 集中治療は麻酔科にとって必要な知識・技能であるため、麻酔科専門医の取得までは、全員に経験していただきます。術後管理や重症患者の集中治療を経験することで、麻酔の技術が一段と向上します。

Q.5 ペインクリニックも経験できますか？

A. ペインクリニックや緩和医療は希望者に重点的に経験していただきます。その期間は2ヶ月から1年まで選択可能です。当院のペインセンターは最新の設備で、その技術を経験することが可能です。

Q.6 研究ってどんなことをするのですか？

A. 基本的には、臨床を身につけていただくことを最優先しています。その中で、臨床研究や基礎研究を経験していただくことで、科学的に物事を考える習慣をつけていただきます。若い時期にこのような事を始めることは極めて重要です。専門医コースに進みながら、社会人大学院に入って、医学博士の取得も可能です。

Q.7 教育体制は充実していますか？

A. 小児麻酔、心臓麻酔、神経麻酔、集中治療、ペインクリニック、緩和医療などの専門家による指導を受けることができます。また、週3日の抄読会、月2回の後期研修医向け勉強会、月1回の外部講師によるセミナーなど勉強できる体制は充実しています。ホームページやブログなどで案内を掲載しています。是非、ごらんください。

Q.8 産休や育休は取れますか？

A. 奈良医大では以前からママ麻酔科医制度が確立しています。多くの女性麻酔科医師が産休や育休をとられ、復帰されています。奈良県の子育て支援プログラムも充実しており、小学校3年生までは週3日勤務も可能になっています。関連施設でもママ麻酔科医の受け入れ先も多数あります。

Q.9 奈良って田舎じゃないんですか？

A. 確かに都会にくらべるとネオンなどは少ないかもしれませんが、ただ、住環境としては住みやすく、30分程度で大阪まで気軽に行くことができます。南阪奈道路もできたので、大学の横まで信号なしで来ることができます。また、奈良医大では、Medicine-based town (MBT)という医療を基礎とするまちづくりにも取り組んでいて、なかなか面白いと感じています。

Q.10 専門医取得後はどうなりますか？

A. 希望に応じて、更なる専門的な研修や勤務先の斡旋などを行います。仲間が協力し合いながら、なんとかうまくやっています。ママ麻酔科医制度に加え、勤務医への相互応援システム、海外留学支援、シニア麻酔科医制度など様々な取り組みをおこなっています。是非、共に地域医療や世界の医療の発展に寄与していければと思います。



強力者 求ム。
Let's challenge with us



連絡先

奈良県立医科大学麻酔科学教室
<http://www.naramed-u.ac.jp/~anes/index.html>

〒634-8522
奈良県橿原市四条町840番地
TEL:0744-29-8902(直通) / FAX:0744-23-9741
E-mail:drjkawa@gmail.com